

——パナソニックインパルスでマネージャーをしようと思ったきっかけは？

竹中 高校時代にフットボール部のマネージャーをしており、大学では違った形で競技に関わってみたいと思い、女子フットボールのクラブチームで2年間ほどDBとしてプレーしました。様々な形で競技に触れ魅了されていく中で、高校時代の恩師が立命館大時代に日本一経験者だったこともあり、一生に一度は日本一を経験してみたいと思い大学3年生の時にインパルスにマネージャーとして参加しました。

奥田 私も高校時代にフットボール部のマネージャーをしていました。大学時代は毎日活動ができない状況だったので体育会には所属せず、限られた時間でも本気でフットボールに携わりたいたいという思いで必死に探した結果、インパルスがマネージャーを募集しているのを見つけた。問い合わせをすると、学生でも参加できるということだったので、大学2年生のときにマネージャーとして入部しました。

野村 私は龍谷大学で4年間、マネージャーをしていました。インパルスでマネージャーを続けようと思ったきっかけは、大学生のときに観に行ったライスボウルです。2015年の立命館大学対パナソニックの試合を外野席から観ていたのですが、試合が終わったときに全員がスタンディングオベーションをしていたのに感動しました。私の席の周囲はパナソニックの関係者がいない席だったので、修正していく大切さをマネージャーの活動を通じて学びました。これも、仕事に大いに役立っています。

奥田 一社会人として尊敬できるインパルスの皆さんに出会えたことが一番大きいです。仕事もフットボールも全力で取り組む選手の方々の姿を目の当たりにし、自分もこんな社会人になりたいと思いました。お手本になる方々が身近にいる環境に学生の時から身を置けたことは、とても恵まれていると思っています。

野村 社会人になると、仕事がある上に家庭を持つようになれば、学生のときに比べて何かに全力を懸ける機会が少なくなると思います。しかし、インパルスの選手、コーチ、スタッフは「何事にも全力」の精神で、家庭や仕事を言い訳にフットボールを諦めたりしていません。すべてに100パーセントを注いでいる、そんな人たちに囲まれた環境にいることで自分も成長出来ていると思えます。



竹中 里奈

たけなかりな。立命館山高校時代にフットボール部のマネージャーを務め、大学1、2年時は大阪の女子フットボールチームでDBとしてプレー。3年時の2015年にインパルスにマネージャーとして参加。7年目の今季はマネージャーのリーダーとして全体の統括を担当する。アパレル会社勤務。

Rina Takenaka

竹中・奥田 間違いないです(笑)。竹中 3つあわせて100パーセントではなく、すべてに100パーセントの力を注ぐ考え方で。就職をするときも自分の100パーセントを注げようと思える仕事に就くことを重要視しました。だから今、仕事も大好きで100パーセント注いでいますし、インパルスに対しても100パーセントで取り組んでいます。インパルスが大切にしている価値観は何だと思いますか？



奥田 葵

おくだあおい。同志社国際高校時代にフットボール部のマネージャーを務める。大学時代の2017年にインパルスのマネージャー募集を見て参加。大学卒業後も保険会社の事務職として働きながらインパルスの活動に参加。今季はソーシャルメディア担当リーダーとしてチームの情報発信を担当している。

Aoi Okuda



野村綾伽

のむらあやか。龍谷大学でフットボール部のマネージャーを務める。卒業と同時にインパルスにマネージャーとして加入。2018年にパナソニックLSテクノサービス株式会社に転職。5年目の今季は現場リーダーとして、練習や試合時のオペレーションを取り仕切る。

Ayaka Nomura

野村 私は今年からソーシャルメディアによる情報発信のリーダーを担当しています。ホームページやインスタグラム、フェイスブック、ツイッターと主に4つのプラットフォームがあるので、それぞれに合わせたコンテンツを制作し、発信しています。インパルスの格好良さと親しみやすさを感じて進むべき方向を定めることが

野村 私は今年からソーシャルメディアによる情報発信のリーダーを担当しています。ホームページやインスタグラム、フェイスブック、ツイッターと主に4つのプラットフォームがあるので、それぞれに合わせたコンテンツを制作し、発信しています。インパルスの格好良さと親しみやすさを感じて進むべき方向を定めることが



野村 私はパナソニックの関連会社勤務で平日の練習も参加できませんので、その特性を生かして現場の業務のリーダーを担当しています。現在、他の会社で勤務して土曜日の練習のみ参加のマネージャーが多いので、情報共有と意思疎通が主なリーダーの仕事になっていきます。

竹中 私はマネージャー全体の統括を担当しています。マネージャーの中には、チームを知り尽くしているベテランもいれば、若いマネージャーもいます。若手の意見をしっかりと聞き、先輩にアドバイスを求めて、皆と一緒に考えて進むべき方向を定めることが

野村 私は今年からソーシャルメディアによる情報発信のリーダーを担当しています。ホームページやインスタグラム、フェイスブック、ツイッターと主に4つのプラットフォームがあるので、それぞれに合わせたコンテンツを制作し、発信しています。インパルスの格好良さと親しみやすさを感じて進むべき方向を定めることが

野村 私は今年からソーシャルメディアによる情報発信のリーダーを担当しています。ホームページやインスタグラム、フェイスブック、ツイッターと主に4つのプラットフォームがあるので、それぞれに合わせたコンテンツを制作し、発信しています。インパルスの格好良さと親しみやすさを感じて進むべき方向を定めることが

わられてきた「自分で考えて行動に移そう」という言葉がいつも頭の中にあります。今までこうしてきたからではなく、なぜそうするのか？理由を考えて行動することが大事だと思っています。また、「自分で考えて行動する」という価値観が共通認識としてあれば、それぞれの個性を生かして意見交換ができるので、皆の個性を生かせるのではないかと考えています。

奥田 それに加えて、何事にも信念をもって最後までやりきることに、インパルス全員が持っているマインドだと思います。

野村 歴史があるチームだからこそ大切な部分は変わらずに引き継いでいきたいですが、そのプロセスは時代やメンバーの変化によって変えていかなければならないと思っています。今年のチームが何を変えなければならぬのか、昨シーズンが終わってから皆で話し合っているところです。

——マネージャーとしての目標は？

野村 日本一になること。そのために選手が力を発揮できる環境を作り、誇りを持って行動したいです。

奥田 チームとしては日本一。チームの一員としては、今年こそソーシャルメディア担当としてインパルスの価値や素晴らしさを広めていけるよう色々アクションを起こしていきます。

竹中 日本一になることはもちろん、マネージャーとして一人ひとりが誇りをもって行動できるようにしたいです。個人としては、人を動かせる人間になりたいというのが大きな目標です。自分のやりたいことや思いを伝えて納得してもらって行動してもらおう。気持ちと行動で人を動かすことは簡単ではないですが、マネージャーは試合に出場して活躍できるわけではないので、自分自身の一つひとつの行動や言動でチームを動かしてチームを勝たせられるように成長したいという思いがあります。

アメリカンフットボールは専門的な役割を持った人々が集まって勝利を目指すスポーツだ。選手のポジションだけでなく、組織を運営する上でも様々なポジションを担う人々の働きがあって、初めてチームとして機能する。社会人Xリーグの強豪、パナソニックインパルスを支える人々はどんな意欲を持ってチームに携わっているのか。今回はチーム運営に欠くことのできないマネージャーの皆さんに、インパルスにどんな思いを持っているのかを訊いた。

I'm 私 IMPULSE 私はインパルス